



---

# 2018S セメ 民族文化論

---



はじめに

本シケプリは2018年度Sセメスターに開講された民族文化論（岩本先生）の授業のまとめである。

授業の内容を理解するにあたり、先生が配布するレジユメが重要になってくる。試験は持ち込み可なので、確実に入手しよう。なおこのシケプリも、レジユメとの併用が前提となっていることを了承願いたい。

## 資料 00—現代民俗学入門—日常学としての民俗学

「解よりも解法」：当たり前の日常に疑問をさしはさむ  
ささやかでありふれた「日常」→（蓄積）→民間学：民俗学  
（当たり前の生活という）自明性に対する疑いを持つ、内省的行為  
→メディアの変化により視角が揺らぎつつある  
普通の人々の生活にどのように情報が取り込まれるのか？という問い

事象そのもののありのままを凝視→当たり前なことの奥の真理を洞察  
（＝科学としての民俗学）  
＜ありふれた事柄への距離を置いた関心＞が途切れない流れを形成＝民俗学の起点

【初期の民俗学】  
もろもろの習俗を「古代からの残存」と推論  
古代から今までの似ているものを抽出し結びつける  
→伝統が受け継がれている！と錯覚（←喪失する者への哀惜、という近代的感性）  
本質主義的、近代に創られた神話  
ex. ナチスドイツ、祭り

\* フォークロリズム folklorism  
＝・外見的な素朴さに伝統らしさを覚え、それらに一時的に触れることで、  
激変する社会変化の中で沸き上がる不安を解消し、自己の内なるふるさと（アイデンティティ）を再確認するメカニズム

【ファルケンシュタインの原則】（レジュメ）

## 資料 01—ありふれたものへのまなざし—フォルクスクンデと民俗学

民俗学：外界の対象（ex. 河童、巨木）に、人々が何らかの意味を与える行為や認識、その移り変わりを、具体的現実とのかかわりの中で考えていく  
日常の「事実」と、人々の「語り」（＝リアリティ）の関係性が重要

『遠野物語』  
怪奇譚を集めるのが目的、ではない  
遠野の人たちの主観的事実（＝リアリティー）を伝える  
「感じたまま」（≠「聞いたまま」）

＜非日常的幻想＞＜日常的幻想＞＜日常的事実＞＜非日常的事実＞を巧みに配す  
(どのエピソードがどれか、はレジュメ参照)

→虚構と現実が連続する生活世界

半信半疑→重層化する不思議なエピソード→現実感

『森のフォークロア』：現代をも分析

エコロジー運動

情報の入手→意識の形成→運動への動員                      どのように？

現実の認識、文化的観念の表明、判断                      どのように？どんな？

→社会層やセクターにおける多声性

メディア社会の中で「予言」を信じ込んで現実を生きる＝遠野との共通性

《日常から民族性の発見 本質主義へ》

ナチズムに利用される民俗学

民謡・昔話→民族精神、民族性、国民性、国体…→ナチズム

\* ハンス・ナウマンの沈降文化論

・ 地方に都市から文化が伝播（表層文化）

・ 古代以来の「原始的な共同文化」が伝承される（基層文化）

→地方文化にこそ本質がある！という解釈

《周圏論＝標準文化論》

文化が生まれるのはいつも都市（標準文化）→周囲に波及

中央の支配者の文化が地方の文化を服属化するプロセス

☆ナウマンの沈降文化論と柳田の周圏論の誤謬的受容

＝都市（表層文化）を排除し、地方（基層文化）を対象化する

という発想

逆転！

本来、重要なのは都市の表層文化であるはず…

《民俗学の二つの系譜》

① 民俗学 Folklore                      Folklore + Folklife = Ethnology（民族学）

② 民学 Volkskunde

《民俗学の特性とは？》

① 壮大な理論の放棄→「つつましい理論」

②

(大衆動員に利用されたことへの批判から)

③ 庶民の暮らし (folklife) を子細に観察したデータの蓄積、手法

④ 口承の語りに着目

→もともと「日常学」

《総体とコンテキストにおける把握》

Ethnography (民俗誌・民族誌) によって文化・生活の「総体」を Holistic に把握したうえで、事柄や現象 (文化要素) を、相対的なコンテキストの中でとらえなおす

《なぜに？の積み重ね》

民族学は、史料批判が厳密にできない→脆弱

なぜ？の積み重ねで進む学問

《もう一度、本質主義から日常へ》

島村の定義 (レジュメ)

\* ヴァナキュラー Vernacular

風土的・日常疎通的な経験・知識・表現

《改めて民俗学とは？》

① 取るに足らない日常瑣事に注目

② 小さいつまらないこともバカにしない

③ 当たり前前の奥の真理

④ *Small beautiful*

⑤ *Humble theory*

→普通の人々の日常実践・生活実践

《世界的一致と国内遠方の一致》

遠野だけでなく各地に似た例がある

→偶然？なぜ？

人間の不思議

## 資料 02ー清潔と近代①ー総観的な視点と生活文化体系/生活財生態学

### \* エスノセントリズム

私たちはつい最近の自分たちの生活や経験から、過去の事物や他者の行いを想像しがち

#### 1. 身体の装い、日々の身繕い

##### ① 風呂と湯（レジュメ）

##### ② マクファーレンの視角

入浴・洗濯の頻度、「量」の観点

身体の装い自体の「質」を問う

背景としてマルサス『人口論』

日本・イギリスは、出生率も死亡率も減る＝矛盾

→両国の清潔感・衛生観を考察するという発想

#### 2. 衣服と洗濯

##### ① 欧米人の見た前近代の生活

イザベラ・バード

→マクファーレンの提起：肉体労働の中の衣服の存在

##### ② 仕事着・普段着・晴れ着

使い分けは日本特有

仕事着としての“ヨウフク”、身分差を示す“ボシ”

cf.韓国（いつもチマチョゴリ）

##### ③ 古着の活用から肌着革命

ドテラ・長着・ミジカ…

肌着の導入で清潔さ・保温が可能に

仕事着のモンペ導入

##### ④ 寝具と寝臥法

##### ⑤ 洗濯

仕事着は洗わない

衣の体系の相違→洗濯頻度の違い

叩き洗い・踏み洗い…

晴れ着、普段着：虫干し・染み抜き（“見える汚れ”は部分洗い）

丸洗いは“見えない汚れ”

（細菌・ウィルスという衛生観念ない）

## 資料 02-②どのように生活・日常を捉えていくか？

《脱文脈化とフォークロリズム》

- ① 文化相対主義
  - ② 文化＝有機的統合体としての文脈性
  - ③ ホーリスティックな観点（部分の寄せ集めではない）
  - ④ **emic**（内在的、文化相対主義的）な生活者の内側からの視点⇔**etic**（分析的、通文化的）
- Ethnography

《エスノグラフィーの新展開》

\*エスノグラフィー Ethnography

フィールドワーク→行動様式・生活様式を有機的・全体的に厚く記述

このような技法または著作が、エスノグラフィー

\*アフォーダンス

環境が動物に対して与える意味のこと

現在エスノグラフィーは、マーケティングや商品開発、デザイン思考に活用

《聞き書きと生活世界》（レジュメ）

ex.認知症患者への聞き取り

## 資料 03-清潔と近代②-装いと穢れ

### 3. 身体の洗浄

- ① 風呂好き日本人？

外国人による一種の理想化（1日1回以上）

⇔日本人民俗学者による調査では、もっと少ない

【マクファーレンの誤認】

「汗は体の上で乾かし、風呂で洗い流す」

「日本においては年間を通じてあまり衣服を身に着けなかったことが、身体の清潔さを向上するのに役立った」

- ② 風呂の構造と入浴の頻度

蒸気浴と温水浴が柵榴式で混交→暗い、不潔→柵榴口撤廃→温水浴へ

垢を搔く柵榴式は肌に負担→頻度少ない

\*当時の沐浴は宗教的な清めの儀式（洗浄は部分洗いでよい）

### 4. 近代日本の衛生行政

- ① なぜ外国人は日本人を清潔とみなしたのか？

18C フランス：清潔がいいという観念なし、裸体を忌む（キリスト教的価値観）

→19C コレラ流行

→清潔の重要性を認識

→「入浴」という文化的に異質な行為が、清潔好き、に映った？

② 蔓延する皮膚病と眼病（レジュメ）

③ 佐渡の衛生事情と生活改善

オロケ→長州風呂・鉄砲風呂

精進日にのみ入浴・洗浄

## 5. 清潔な民族という自己表象化

① 芳賀矢一『国民性十論』

中国人・韓国人と比べた自国民の優位性を主張

⇔朝鮮は「白衣の民族」と自称

=地方改良運動の一環

郷土愛→祖国愛

（近代日本はアイヌ・朝鮮・台湾の民を不潔とし、入浴習慣などを強要）

② 清潔と近代国家

身体的汚れと精神的汚れを同一視

→下級層を清潔にする→社会から伝染病と革命を同時に取り除く

→「潔い身の処し方」に発展？

### 資料 03②ーナンドと寝間、素足とスリッパ（レジュメ参照のこと）

- ・ 広間型と田の字型、そしてナンド（レジュメ）
- ・ 間取り形式の分布（レジュメ）
- ・ 寝間：戸主権・主婦権の伝承との関係
- ・ 裸足と素足（レジュメ）
- ・ 道路舗装率
- ・ 着装区分とスリッパ

### 資料 03③ー日中韓の間取り（レジュメ参照のこと）

### 資料 04ー清潔と近代③ー「清潔で衛生的な暮らし」の日常化

- ・ きれいと清潔（レジュメ参照）

〔「きれい」の3つの意味〕

① 美しい

② 清潔



③ 斉一性→過度の追及は「差別」につながる

〔見かけの上でのキレイさ〕

禁忌意識+科学知識=現実の「清潔」

〔「穢れ」意識とケガレの伝染〕

エンガチョの例、忌引き

〔斉一性の原理と迷惑〕

ファシズム

斉一性を乱す=迷惑、という意識

・日中韓の集合住宅の比較 (資料 03③を参照!!!)

日本：集合住宅→家制度の廃止

家族外部には閉鎖的 cf.欧米

・「清潔で衛生的な暮らし」の実現 (レジュメ参照)

浴室の整備

尿処理 (資料 02②の右側参照)

疾病構造や病気の質を転換

・身体技法・立ち居振る舞いの変化

台所改革と専業主婦：家電→ジェンダー役割を強化、働く女性と専業主婦の二極化

床座姿勢からの解放

資料 05—二つの民俗学—内務省系/農政学者系

・二つの民俗学雑誌

『民俗』(内務省系統・芳賀矢一) ⇔ 『郷土研究』(農商務省系・柳田國男)

芳賀矢一ら：ふるさと保全運動、日本民俗学会

史蹟名勝天然記念物保護法など

→柳田の郷土研究は、内務省の地方政策・文化政策との対抗関係の中で整理

・内務省の近代日本の文化振興策

1910 年代 日露戦争後の地方改良運動：神社合祀、**社格化**

1920 年代 WW I 後の民力涵養運動：国民儀礼の創出、地方を「文」で強化

1930 年代 郷土教育運動 (昭和恐慌→科学性挫折→美しい共同体→全体主義)

1940 年代 大政翼賛会の地方文化運動 (**ナウマン沈降文化論の逆転的受容**)

「正しき日本文化は地方文化に存す！」→ファシズムに利用

GHQ の神道指令 →民主化の手段としての文化財保護

## 神政連の靖国国営化運動

### \* 社格化、とは

自然村の中心に神社→「行政村」としての役割

日露戦争の戦死者を祀ることで、日本人としてのアイデンティティを形成

“皇国の臣民”としてのふるまい

→国民国家の形成

- ・柳田の『民間伝承』の役割（レジュメ参照）

- ・「伝統」の語義変化と tradition との接続（レジュメ参照）

Tradition 伝承→伝統

### \* なぜ伝統が必要か？

→集団（想像の共同体）の社会的結合、帰属意識の確立のため

- ・柳田における「郷土研究」と「民俗学」

古代研究ではなく「郷土研究」からスタート

「余分の道楽」

現実の生活の中の疑問から出発（＝地方学）

経世済民の思想→公民の民俗学

古代研究→「今ここにある当たり前」へ

## 資料一近代日本における「民俗」の用法（レジュメ参照のこと！）

民俗⇔風俗⇔殊俗 の使い分け

### 【維新～地方改良運動】

「民俗」＝教化されていない異民族 or 異質な自民族、というニュアンス

（廃仏毀釈の時代）盆踊り、左義長＝淫風なもの（墮胎と同じく）

新暦や断髪 風俗が開か未開か、民情が質素か奢侈かを問う

→【1910年代～ 地方改良運動】

『国体の本義』沈降文化論と周圀論の誤謬的受容が確認される

## 資料 05②ーフォークロリズムー素朴さと連続性の希求

《フォークロリズムの定義と機能》

民俗文化の継受と演出・本来それが定着していた場所の外で・「書きわりの」な演出

現代の不安を過去によって癒すセラピー

\* Folklorism＝分析的な枠組み、補助線としての存在

## 《文化理解の二つのまなざし》

### ・本質主義的認識

周辺部には「伝統」が連綿として存続・維持されているという認識が潜在  
今ある民俗→本来は？

過去にさかのぼることで本来の意味を解き明かそうとする試み（柳田独自）  
→・文化ナショナリズム：現状が不安定→過去に癒しを求める（社会学の考え）  
ex.元旦、七草、節分、端午の節句… すべて中国渡来の伝統なのに？

逆にクリスマスは「伝統行事」と言わない

西洋文化は作られた伝統になりにくい？

汚い東京駅←「旅の恥は掻き捨て」 関係ある？

## 《柳田国男の認識と理解》

「伝統」には多種多様の新分子が加味・融合されている  
どの風俗も、近代の（都市の）流行から盛んになった

1920～ 民力涵養運動により「伝統」の可視化

全ては天照大神のおかげ→統一化

国民儀礼の創出

国民道徳（時間を守る、迷惑をかけない…）の強制

⇔日本国の古来の慣習だと思わせるのは間違い！！【批判】

## 《生活文化体系とフォークロリズムー意味づけの変化》

## 《本質主義から意味づけの科学へー現代民俗学の視点》

（以上、レジュメ参照）

## 資料 06ー文化の「伝統」化ー柳田国男の文化理解

### ・「文化運搬の問題」

文化は…複雑な総合体、多数の因子の組み合わせ

文化は「改良」の意、古い文化は次々に新しい文化にとってかわられる

### ・「文化と民俗学」＝大政翼賛会文化部批判

文化運動者は、文化 element を「文化」と呼ぶ

文化を＜地方＞＜時間＞で無理やりに区分

珍しく変わったものを拾い上げ中心にする

→批判！！

都市の文化をないがしろにする地方文化運動を批判

\*大政翼賛会の地方文化運動

1940 年代初頭「正しい日本文化は地方に存す」

『国体の本義』1937←京都学派と日本主義者のアマルガム

↑

盧溝橋事件 満州国「五族協和」

(今までの同化では対応できないから)

→多文化主義/地方文化運動と並行

- ・「文化政策といふこと」＝翼賛会地方文化運動批判

郷土史にとらわれるべきでない！

- ・「伝統と文化」(レジュメ参照)
- ・「昔を尋ねる道」(レジュメ参照)

ex.聖徳太子

明治大正では無視→昭和になるとお札になる

このように、文化は変化していく

- ・「国民性論」(レジュメ参照)

敗戦の原因：付和雷同・事大主義

日本の「文化」概念の推移 (レジュメ参照)

- ・ **文化**＝変化を常態とする、「文」によって変化させる (朝鮮の文化政策 ⇔ 武断政治)
- ・ **伝統**＝不易・不変の本質

資料 07ーファルケンシュタインの原則ー現代ドイツ民俗学の再定義

(資料 00 に定義)

- ・ 現代ドイツ民俗学の定義

〔民俗学〕は客体及び主体に表われた文化的価値ある伝達物を分析

客観的表出や主観的表出に見られる文化的諸価値の**伝達**を検討

\* **伝達**：伝播 (地理的)、伝承 (時間的)、マスメディア、小集団… いろいろある

「客観的表出」(モノ、規範)・「主観的表出」(態度、見解)を分けて考える

- ・ 戦後日本民俗学の定義

- ① 生活変遷→民族文化を明らかにする
- ② 民族の**基層文化**の性格と本質とを究明 (表層文化は?)
- ③ 世代を超えて伝えられる集合的表象 (伝達だけ?)

- ・柳田の都市の標準文化論

方言圏論

→中央都市からの「文化普及の法則」の発見（文化普及の装置としての都市）

→（外来文化の影響もあり）都市で新文化が誕生し、地方に波及した！

- ・ハンス・ナウマンの沈降文化論—その誤謬的受容（逆転して解釈された）

民俗財は上層で作られるのだ

原始的共同体財ではなく、上層からの沈降文化財

→「常民というものは、生産せずに再生産するものである」（上流階級の真似）

- ・ファルケンシュタイン原則へ至る戦後ドイツ民俗学の流れ

① ナチスに利用された「連続性」をどう克服する？

② 方法論的な強化→フォークロリズムの発見

科学技術の発展した現代だからこそ、非合理・不可解な現象が頻発

ex.団地の日常：徹底的にホーリスティックに調査

③ 新たな出発と漂流の時代

「民俗よ、さらば」

研究対象としての「民俗」→土着的な Vernacular

- ・バウジンガー「現代民俗学の輪郭」

3つに分類できる

① 過去の文化の中であった文化要素に類似するものが、現在も残っている

② 過去の要素が残存し、現在に問いかけている

③ 現在の中で規定・分析される文化要素（一方、過去からの拘束、歴史的な性格をもつ）

- ・柳田民俗学の＜日常＞への転換（レジュメ参照）

### 資料 08—メディアの物語化とリアリティ

- ・家族による殺人が半分以上

- ・親子心中は大正時代の終わりから急増

- ・心中は日本で特徴的

- ・見つけてほしい捨て子→（戦後）捨て子しづらい社会

- ・血縁関係のない家族構成員（女中など）の排除

### 資料 08②—家庭内殺人と親子心中の実態

- ・親殺し、子殺しは増加したのか

未成年犯罪、尊属殺、嬰兒殺し、子殺し、親子心中…→減少

マスメディアの過剰報道で、**体感不安**=リアリティ≒主観的表出

- ・ロジャー・グッドマンの視角

1990 年代は、児童虐待問題の「発見」

- ・親子心中は大正・昭和の産物

日本に特徴的（資料 08）

大正末期以降急増した極めて歴史的な事象

原因については、母子一体説・米価高騰説などがある

↓

- ・日台自殺形態の文化精神医学比較から（林憲）

中国人：不満と攻撃を自己以外のものに向け、無理心中も恋仲・家族外の人間と

日本人：内罰的、自己の責任（家族意識、社会規範との関連？）

- ・捨て子と親子心中の逆相関

大正中期まで、＜親の自殺 and 子殺し＞＜親の自殺 or 子殺し＞を選択できた

新聞に広告を載せるなど

→捨て子は非情な行為、という価値観

→＜親の自殺 and 子殺し＞＝心中 を選択せざるを得ない

- ・子育ての責任とイエの構造変化（レジュメ）

### 資料 09—家族内殺人めぐる「語り」の日韓比較（レジュメ参照）

- ・ニュース報道の物語化

- ・儀礼のコミュニケーションモデル

- ・物語化に潜んだ価値規範

（・家族内事件をみる＜まなざし＞の時間的变化）

（・日韓の家族内殺人をみる＜まなざし＞の相違）

（・「天倫」と「迷惑」）

### 資料 09②—メディアの家族内事件の物語化

09 の例となっているので一緒に参照すること！！！！

以上